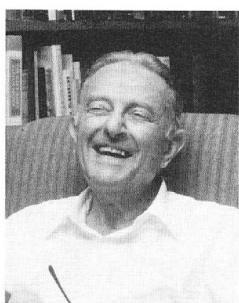


ヴァルトゼーミュラー「インドシナ半島と大韓靼図」
1522年頃



書齋でくつろぐ晩年の
ポール・C・ブルーム氏
(1898~1981)

開港のひろば

YOKOHAMA ARCHIVES
OF HISTORY NEWS

編集・発行／横浜開港資料館（財 横浜開港資料普及協会）
横浜市中区日本大通3番地 〒231 電話(045)201-2100
発行日／平成7年4月26日
印 刷／中川印刷株式会社

企画展

「歐州版日本古地図 —ブルーム・コレクションから—」

当館が所蔵するコレクションのひとつに故ポール・C・ブルーム氏から譲り受けた洋書を中心とするコレクションがある。ブルーム氏は一八九八年、横浜居留地でフランス人貿易商の家に生まれ、少年時代を横浜でおく。戦後、日本にもどり、在日日派のひとりとして知られた。コレクションは一九世紀に刊行された日本、とくに横浜に関する貴重な刊本・新聞・雑誌などで構成されている（目録を完備し一般公開している）。

コレクションにはこのほかに、横浜絵・瓦版などがあるが、今回が本格的な初公開となる欧州版日本古地図、全一三五点も含まれている。しかしブルーム氏は本格的に古地図収集を始めようとした矢先の一九八一年、八三歳で亡くなられた。

巻頭をかざ?

たのは、このコレクション中、もつとも古いと考えられるヴァルトゼーミュラー(Martin Waldseemüller)の『東方見聞録』はよく知られているように一二七〇年から九年にかけてイタリアの商人、マルコ・ポーロがおこなった東方旅行の記録である。マルコ・ポーロは日本をおとずれることなかったが、次のように「黃金の国」日本を紹介している。

「チバング「日本國」は、東のかた、大陸から千五百マイルの大西洋にある、とても大きな島である。住民は皮膚の色が白く礼節の正しい優雅な偶像教徒であって、独立国をなし、自己の国王をいただいてる。この國ではいたる所に黄金が見つかるものだから、国人は誰でも莫大な黄金を所有している。この國へは大陸から誰も行った者がない。・・・国王の一大宮殿は、そこ純金で出来てゐるのでぞ。我々ヨーロッパ人が家屋や教会堂の屋根を鉛でふくよに、この宮殿の屋根はすべて純金でぶかれている。・・・またこの國には多量の真珠が産する。・・・真珠のほかにも多種多様の宝石がこの國に産する。ほんとうに富める島国であつて、その富の真相はとても筆舌には尽くせない」(愛宕松男訳注『東方見聞録2』東洋文庫)。

地図上では日本は何の変哲もない普通の島として描かれているが、実はヨーロッパ人未踏の「黄金の国」へのつよい関心がこめられているといえよう。

主な参考文献：OAG・ドイツ東洋文化研究会編『西洋人の描いた日本地図—ジバングからシーボルトまで』(一九九三年) (中武香奈美)

「チバング「日本國」は、東のかた、大陸から千五百マイルの大西洋にある、とても大きな島である。住民は皮膚の色が白く礼節の正しい優雅な偶像教徒であって、独立国をなし、自己の国王をいただいてる。この國ではいたる所に黄金が見つかるものだから、国人は誰でも莫大な黄金を所有している。この國へは大陸から誰も行った者がない。・・・国王の一大宮殿は、そこ純金で出来てゐるのでぞ。我々ヨーロッパ人が家屋や教会堂の屋根を鉛でふくよに、この宮殿の屋根はすべて純金でぶかれている。・・・またこの國には多量の真珠が産する。・・・真珠のほかにも多種多様の宝石がこの國に産する。ほんとうに富める島国であつて、その富の真相はとても筆舌には尽くせない」(愛宕松男訳注『東方見聞録2』東洋文庫)。

企画展

「欧洲版日本古地図」から

今回の展示では、故ポール・C・ブルーム氏旧蔵の欧洲版古地図、一三五点すべてを展示了（途中入れ替えあり）。

一六世紀初頭から一九世紀半ばにかけてヨーロッパで製作された地図上で、日本の形がたどつた複雑な変遷過程をじっくりご覧いただきたい。

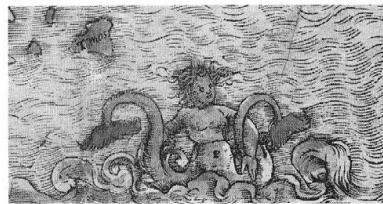
ここではより古い時代の地図によくみられる海獣や、帆船、異国の人像といったさまざまな装飾のなかからいくつかを紹介したい。装飾は資料的には副次的なものであるのかもしれないが、そのもの 자체は楽しくかつ美しい。そしてそこには、はるか遠くに位置するアジアや日本という国にたいしてヨーロッパ人がいだいた一種のおそれや憧憬といった気持ちをみるとできよう。

所載地図の製作年代である。
なお各装飾に付した年代は、
所載地図の製作年代である。

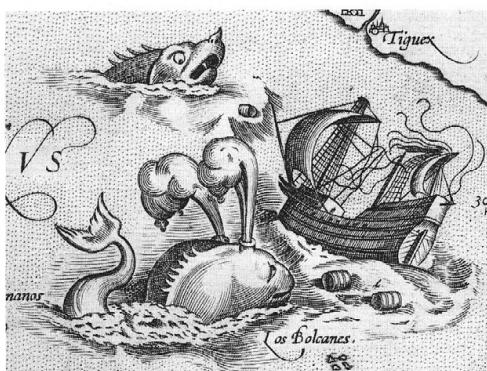
(中武香奈美)



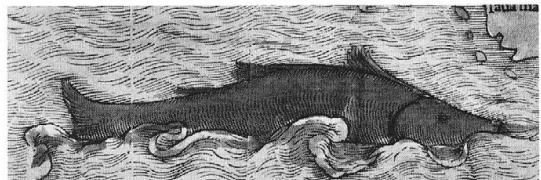
1570年



1546年



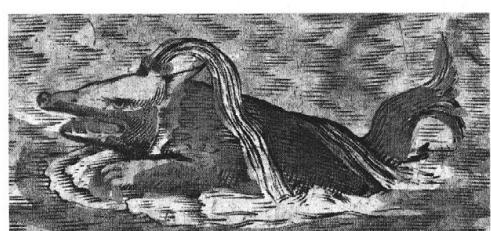
1570年



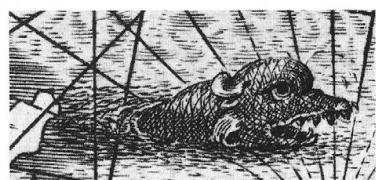
1546年



1636年



1598年か



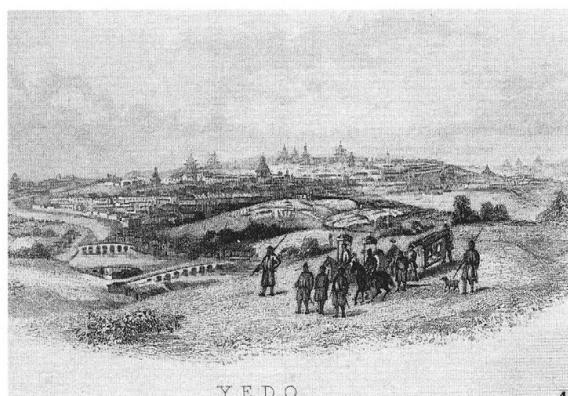
1663年



1710年か

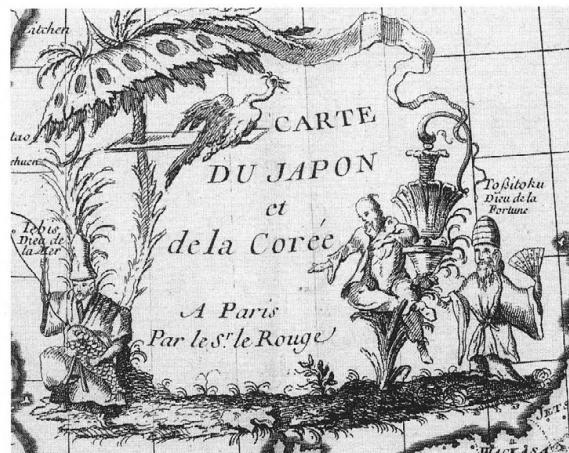


1740年頃 左側の地図を描いている人物はケンペル



1850年か

江戸



1748年

左端に恵比寿、右端に歳徳（絵は福禄寿）が描かれて
いる

「横浜の近代 パートⅡ」展余話

前号で紹介した「横浜の近代」パーティ II 展の展示資料のなかに、ロンドンの絵入週刊紙「グラフィック」（一八六九年創刊）の一八九〇年（明治二十三）一月四日号の記事があつた。横浜居留地から富士登山に出かけた外国人が「旅行免状」の不備をとがめられて登山を断念せざるをえなかつた顛末を描いたものである。

明治の不平等条約では、治外法権と内地開放は表裏一体の関係にあつた。外国人は領事裁判権などの特権を有するかわりに、居留地やその周辺の遊歩区の外へは自由に入り出しきなかつたのである。ここから「内地雑居」や「内地旅行」の問題が生じ、論議を呼んだ。

遊歩区域外へ旅行したいという外国人の要望は開港当初からあって、政府はそのときどきに温泉保養などを許可していたが、明治七～八年に、病氣養生・學術研究にかぎり内地旅行を許可する制度を整備して、「旅行免狀」（バースポート）を発給することにした。これは横浜居留地の全容が整った時期とほぼ時を同じくしており、これ以降、明治三年（一八九九）に改正條約が施行されるまでの間、内地旅行問題は旅行免狀の手続きや取締りをめぐるかたちで展開される。その詳細は別の機会

ところが横浜の外国人のあいだで箱根・熱海の温泉を訪れる者が増加し、旅行免状の交付事務が煩瑣となつた。そこで外務省は、明治一〇年、温泉旅行免状を交付することとし、以前のように神奈川県にその事務を委任することとした。外国人が領事を通して県庁に出願すると、本人の国籍・姓名・身分・横浜番号・入浴期限が記された「外国人入湯治免状」が交付されるようになつたのである。

『グラフィック』紙の主人公が持つていたのは、外務省交付の内地旅行免

明治八年に定められた「外国人旅行免状」は、旅行者本人から公使館を経て外務省に出された出願に対し、外務省が交付するもので、旅行者の国籍・姓名・身分・寄留地名・旅行趣意・旅行先及路筋・旅行期限を記載するようになっていた。これは一回の旅行にかぎり有効で、旅行の都度申請しなければならなかつた。

会に譲ることにして、ここでは一般的な外国人の場合について、いくつかの事例をみながら大筋を追ってみよう。
これまでの研究では『内地雑居論資料集成』第一巻所収の今井庄次「明治二十年代における『内地雑居』的傾向について」が詳しい。その他『神奈川県史・資料編一五』も参照)。

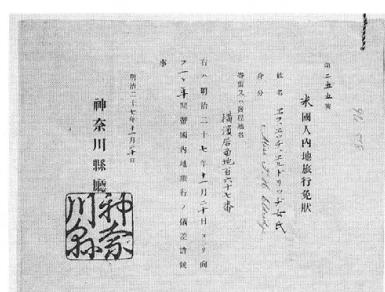
状ではなく、神奈川県庁の湯治免状で富士登山は許可外であった。同年にドイツ人がやはり湯治免状で富士登山を強行して免状が停止処分となつた事例が「日本外交文

リス国民は一二か月の期限内ならば本国内どこへでも行くことができる旅行免状を外務省または地方長官から得ることがができるようになつたのである。図は、明治二十七年一月二〇日付け

六か月までに延長された『日本外交文書』明治二五年)。

こうして、なるべく自由に国内を旅行したい外国人側と、内地旅行はあくまで日本政府の「好意」からでた「特例」(『日本外交文書』明治二年)であるとする日本政府との間の纏引きもある。条約改正をもつて終止符を打つことになる。

は、日米通商航海条約（日英条約の付属議定書同様の内地旅行規定がある）が調印される二日前となっている。つまり、最初に結ばれた日英の新条約によって、イギリスだけでなくアメリカなど締盟各国が最惠国待遇の恩恵をうけた例がここにあるわけである。



「米国人内地旅行免状」の「米」の字は手書き。のちに「外国人旅行免状」と印刷し、本文に国籍の項を加えた書式となる。

横浜人物小誌

39

厚田 武次郎

横浜プラムマーの草分け

「プラムマー Plumber」は「鉛管工」と訳され、一般的には建築工事における給排水衛生工事を請負う、いわゆる水道工事屋をさす。幕末・明治初期においても、プラムマーを看板に掲げる技術者はローウェル(S. ROWELL)を始めとして存在しなかつたわけではないが、いずれも銅工などの兼業であり、独立した業種となるのは、明治二〇年(一八八七)日本最初の近代水道として横浜創設水道が市内配水を開始し、居留地を中心にして家屋内に水道を引込む事例が急増した以降のことになる。創設水道工事において、家屋内の水道配管工事を指導したのがイギリスから招聘された鉛工職長ウォルシショウ(A. WALTHEW)であり、草創期の日本人プラムマーもまたウォルシショウの薦陶を受けた者たちであった。厚

田武次郎もそのひとりになる。

厚田武次郎は明治七年(一八八四)東京に生まれ、「十九年普通学を卒業と共に神奈川県水道局に出任し、鉛工見習として英人技師ウォルシウ氏に随ひ、横浜水道布設工事に従事するこ約十年の久しきに亘り、技大に熟」(『実業家人名辞典』明治四年)し、日本銀行本店新築の衛生工事、東京市創設水道工事を経て三年大阪に転じ、

宮沢氏請負タルニ付、今回ハ実ニ宮沢ト腕クラベニ付……(三月二五日付)

……当工事〔正金銀行〕モ弥々三十

日ヨリ鉛管布設ニ着手、彼ノ宮沢ハ過

電話地下ケーブル工事に従事し、三五年大阪に「水道衛生設計工事の業を開始」したとされる。大阪では、三四年創業になる須賀豊治郎・藤五郎兄弟の商店(現須賀工業株式会社)と提携し、三七年須賀商店の東京進出の露払い的任務を担って東上し、横浜正金銀行本店(現神奈川県立歴史博物館)の衛生工事を受注したのを契機に再び横浜に戻ってきた。須賀家にはこの間の消息を伝える厚田武次郎の書簡が遺されている(須賀保編『須賀商店主受信綴抄明治篇』『同補遺』私家版)。

……工事ヤリ方モ御地(大阪)トハ相違致ツキ、一ヶ所ニテモ油断シテヤレバ西洋人ニツツコマレ閉口スル事間々有之候(明治三七年二月二七日付)

……飯田氏ハ当地(横浜)ニハ信用厚ク、殊ニコンデル氏ハ一ト入ニテ:コンデル氏申スニハ他ヨリ来ル共決シテ工事ハ命ゼザルニ付充分勉強セヨト言レタル位ニテ……(三月八日付)

……尚正金モ拙者總テ担任 日々通勤致シ……且ツ同銀行工事ノ老部分ヲ

宮沢氏請負タルニ付、今回ハ実ニ宮

澤ト腕クラベニ付……(三月二五日付)

……当工事〔正金銀行〕モ弥々三十

日ヨリ鉛管布設ニ着手、彼ノ宮沢ハ過

日本近代建築の恩人イギリス人建築家コンドル(J. CONDOR)の信用厚諾致シ、拙者工事場ヲ見ル事不叶様致

候、隨分面白イデス(四月三日付)

日本近代建築の恩人イギリス人建築家コンドル(J. CONDOR)の信用厚

諾致シ、拙者工事場ヲ見ル事不叶様致

資料よもやま話

將軍上洛と「天内入魂」

古記録の中から

横浜開港後の日本は激しい政治の混乱に見舞われたが、こうした政治の混乱は横浜の人々にもさまざまな影響を与えた。今回はそうした幕末期の政治と人々の暮らしとの関係を市域に残された史料から紹介したい。

まず、鶴見区生麦の旧家である関口家が所蔵していた古記録の中から文久三年(一八六三)に記された一通の廻状を紹介しよう。

[史料二]

内密以封廻状得御意候、然は御上洛通行之節 御休泊宿々其外ニ而御供方之内御老中様方を始、御下供之向々・御旗本以下御家人衆中、如何之儀無之哉其御筋より御内糺被仰付候

一、天内入魂

1、旅籠錢不相払事

一、宿々間之村々買上品代不相払事
一、御休泊宿ニ而迷惑致、宿賄方酒肴等相好候事

右之外何ニ而も不宜及所業、如何之取計見聞いたし候ハ、其巨細書取、有無共々役人中・助郷惣代加判、内密御尋書上と認メ、半紙堅帳袋綴、繼立被成早々御差越可被成候。

亥二月廿六日

この史料は神奈川宿の問屋が東海道沿いの村々に宛てたもので、将軍の上洛に際し、旗本や御家人が農民に迷惑をかけたことがないかを調査することを知らせたものである。調査を命じたのが誰だったのかについては記していないが、幕府の目付あたりが命じたものかもしれない。

ここでいう将軍上洛とは一四代将軍徳川家茂が幕府と朝廷との関係を修復するために京に登ったことをいい、将軍の上洛は三代家光の上洛以来三百三十年ぶりのことであった。ちなみに、家茂が江戸城を出発したのは文久三年二月二三日で、「行は老中の水野忠精・板倉勝静をはじめ旗本・御家人など総勢三千人に達した。

また、将軍の通行に際して東海道沿いの宿村は宿泊・休憩施設の提供や荷物運搬のための人馬の用意など、さまざまな負担を行なつたが、これに加えて将軍に随行する幕臣たちの要求する無理難題が人々を苦しめることになつた。先に掲げた史料は、こうした事態を遺憾に思つた幕府が旗本・御家人の不法行為を知るために作成したもので

「天内入魂」と旗本・御家人

ところで、先に掲げた史料の第一箇条目に「天内入魂」(てんないにゆうこん)という耳慣れない言葉が記されている。この言葉も、旗本・御家人が宿場や村々で行なつた無理難題のひとつであることは間違いないのだが、はたして「天内入魂」とはいかなる行為を指すのだろうか。

史料には四つの不法行為が四箇条にわたって記されている。この内、第一箇条以外は読めば意味が取れる。しかし、第一箇条の「天内入魂」だけは意味がよく分からぬ。そこで、この時期に作成された古記録の中から「天内入魂」について記されたものを搜し出し、「天内入魂」がどのような行為だったのかを推測することにした。まず

『保土ヶ谷区郷土史』上巻(一九三八年刊)、保土ヶ谷区役所内、保土ヶ谷区郷土史刊行委員部編纂)六三六頁に収録された史料をみてみよう。

[史料二]

当午年

堀田備中守様・外御役人中様

右は御上京御通行ニ付、人馬賃錢御払方並御旅籠木錢石代御払方、其外日雇・陸尺□□無賃宿籠入魂等ねだり候様子

あつたといえる。

史料によれば、旗本・御家人の中に宿泊代や買物代を踏み倒す者もいたようで、これらの事件が発生した場合には直ちに届け出よと記している。また、旗本・御家人に酒を要求された場合も同様であった。

「天内入魂」について記した「御用留」も有之趣取調可差出旨承知仕候、依之宿方下役人・馬指其外指役のもの等得と取調候得共、入魂等之儀ハ勿論無貲人馬等一切差出不申候、此度御通行ニ付ハ嚴重之御取締ニ而御下々の衆、其外迄宿方え対し御非分かさつ之儀無御座候、且又御旅籠錢並木錢米代御払方等迄何ニ而も御非分之儀一切無御座難有仕合ニ奉存候、以書付申上候、以上安政五年二月

川崎宿

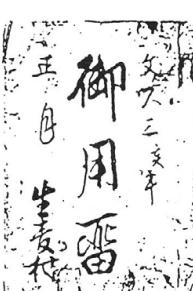
問屋 東右衛門

年寄

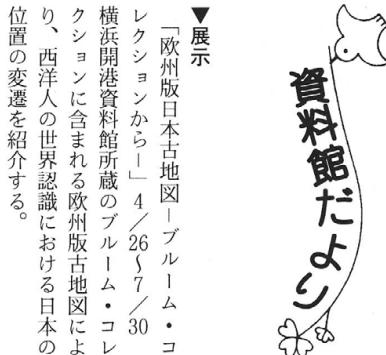
伝右衛門

宿々取締御役 茄部清兵衛様

山本忠次郎様



閲覧室から



▼展示

「欧洲版日本古地図一ブルーム・コレクションから」4/26~7/30
横浜開港資料館所蔵のブルーム・コレクションに含まれる欧洲版古地図により、西洋人の世界認識における日本の位置の変遷を紹介する。

当館では、幕末から大正期までの新聞の収集に力を入れてきました。今回は、昨年度当館で作成した新聞の複製のうち、横浜の有力印刷業者で、南仲通四丁目にあった南中舎が発行した商業関係の新聞を紹介します。これらのほとんどが、発行当時横浜市本町三丁目にあった生糸完込商渋沢商店や森田商店から、埼玉県の得意先宛て送られたものらしく、比較的まとめて収集することができました。閲覧室内の開架書架にありますので、ご覧ください。

- ▼寄贈資料
- (1) 昭和期の漁業関係資料ほか 四二点(磯子区杉田 間辺文七氏)
 - (2) 昭和20年代の英國総領事館(絵葉書)一点(鶴見区寺谷 板垣久史氏)
 - (3) 関東大震災関係資料 三四点(東京都渋谷区上原 黒河内隆氏)
 - (4) 古写真複写アルバム 一〇六点 横浜外国人墓地墓標アルバム 七二点(南区前里町 庄和幸氏)
 - (5) 故林国治氏所蔵神奈川県郷土資料写真頒布写真 一九一点(西区伊勢町 植草巳代子氏)

- (6) 「Yokohama & Tokyo」一九三〇年 一点(前橋市城東町 中野数男氏)
 - (7) 横浜山手ゲート座におけるフランス劇団公演絵葉書 四点(練馬区林丈二氏)
- ▼新刊案内
- 「よこはま人物伝—歴史を彩った50人」(横浜開港資料館編 神奈川新聞社・かなしん出版発行) 横浜開港資料館報『開港のひろば』に連載中の「横浜人物小説」をもとに一冊にまとめたもの。定価1500円。
 - 「横浜と上海—近代都市形成史比較」

- 研究 (横浜と上海) 共同編集委員会編 横浜開港資料館発行) 港都として発展してきた横浜と上海の近代の歩みを様々な観点から比較検討する。横浜開港資料館と上海市関係機関との学術交流の成果。定価2500円。既刊の展示図録『横浜と上海—二つの開港都市の近代』(定価2000円)及び『横浜中華街—開港から震災まで』(定価800円)と併せて読んでいただければ、横浜と中国の関係について理解はさらに深まります。

- 新刊、既刊とも横浜開港資料館・受付で好評発売中。

『横浜蚕糸日報』創刊、終刊年月日とも詳細は不明だが、『神奈川県統計書』によれば明治二十五年五月届出とされ、同年五月九日に第三種郵便物認可になっている。本紙四面、日曜日休刊の日刊紙。

内容は、日本各地の蚕糸業関係記事、海外の市況、横浜及び日本各地の商況、外國為替相場、広告からなっている。

当館では、明治三四年九月、同年一月~明治三六年九月の本紙三七〇号分(欠号多数)を所蔵している。

当館では、明治三四年九月、同年一月~明治三六年九月の本紙三七〇号分(欠号多数)を所蔵している。

に先立って、同年六月二日第三種郵便物の認可を受けている。本紙四面、日曜日休刊の日刊紙。

内容は、横浜生糸商況、横浜蚕糸外四品取引所建相場、横浜株式米穀取引所建相場、東京及各地電報、広告からなっている。

閲覧室からのお知らせ

閲覧室の図書整理のため、左記の期間閲覧室を休室します。
一月~明治三六年九月の本紙三七〇号分(欠号多数)を所蔵している。

また、月末整理日のため、次の日は閲覧室を臨時休室します。
6月27日(火)~6月30日(金)、平成8年2月27日(火)~3月1日(金)
31日(水)~

なお、収蔵庫廻蒸のため、5月16日(火)も休室します。

ご理解とご協力をお願いいたします。

(上田由美)

一月~明治三六年九月の三五四号分(欠号多数)を所蔵している。
なお、同紙以外の付録は、それぞれ本紙とともに合冊した。